

# ハローキャリアワーク通信

令和6年9月24日

教育総合センター

事業推進担当課

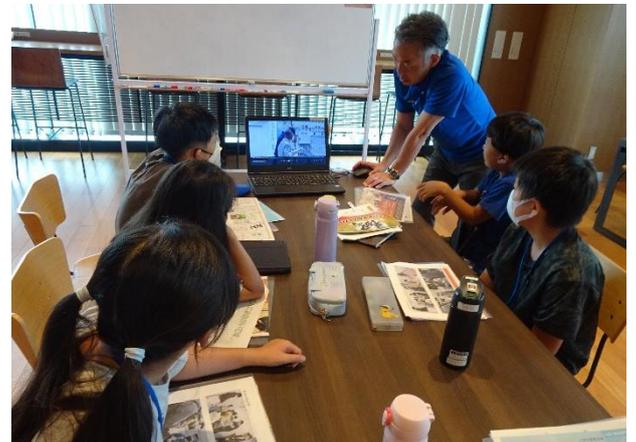
9月21日（土曜日）に昭和信用金庫からのオファーのあった「シモキタ三ツ星バザール2024」の第1回目が行われました。当日は1名の欠席者がありましたが、5名の参加者が集まり楽しい雰囲気の中で充実した取り組みができました。開始にあたり教育委員会の担当者から諸連絡を含め全体の流れの話がありました。その後、昭和信用金庫の武藤様が用意していただいた資料を基に「シモキタ三ツ星バザール2024」に来場したファミリーが楽しめる「ブースを考えよう」という、今回のオファー内容の説明をしてくださいました。



まず、昭和信用金庫の説明です。昭和7年設立で、今年で92年、世田谷区の区制施行と同じとのことです。都内に19店舗あり、そのうち世田谷区には10店舗あるとのことです。武藤様から「信用金庫とは？」とはとの問いかけに「お金を預ける」などの答えが返ってきましたが、武藤様は、「地域の方からお金を預かって、地域の必要な人にお金を貸したり、町全体を元気にしたりする



応援をしている」とお話しくださいました。そして、「信用金庫」と「銀行」の違いとして、「銀行」は、全国の人からお金を預かって「全国の人」にお金を貸すけれども、「信用金庫」は、「地元」の人からお金を預かり「地元」の人に貸すことが大きな違いと教えてくださいました。だからこそ、昭和信用金庫は地元の人と共に仲良く助け合う「相互扶助」や同じ地域で互いに元気で幸せに暮らせる「共存共栄」を目的にしているとのことでした。



そこで、昭和信用金庫は「もっとみんなが仲良く助け合って元気に暮らしていくために、お金を預かる、

貸す」だけでなく、たくさんの人に、世田谷のいいお店があることを知ってもらい、買っていただくことで「地元の人たちを元気にしたい」と考え、この「シモキタ三ツ星バザール」行うことにしました。今年で2回目の「シモキタ三ツ星バザール」とお話しくださり、参加した子どもたちに「シモキタ三ツ星バザール開催の意味」と「昭和信用金庫の経営方針」などを分かりやすく説明してくださいました。説明の後で、昨年の様子映像を子どもたちに見せて、よりイメージを深めてくださいました。





この説明の後、教育委員会の担当者が引き続き、子どもたちに「たくさん人来てもらえて、親子で楽しめるブース」で行うことを考えました。初めは子どもたちの緊張を解くために自己紹介、そして「絵しりとり」を行いました。「絵しりとり」には、教育委員会の担当者も交じり雰囲気盛り上げ、緊張を解しました。いよいよ「親子で楽しめるブース案」を一人一人が付箋紙にその内容を書き、ホワイトボードに張り付けていきました。



1枚の付箋紙に1つの案を書いて、ボードに貼りました。作業時間は、はじめ10分程



度と思いましたが、子どもたちの案がどんどん出てくるので、終わりの時間も気にしながら少し伸ばして、ホワイトボードが一杯になる程の考えが集まりました。その後みんなでどれがい

いか絞り込むために「ブースの広さ」をひもで示し、実際に動いて広さを感じたり、空間の活用を考えてたりしながらまとめました。そして、昭和信用金庫の武藤様に実際に提案し、その中で「実施可能か」の判断を委ねることにしました。以下その様子です。

下のホワイトボードに貼られた付箋紙に書かれた案を大きくまとめると、「占い：ガチャガチャ」「的当て」「スライム」「お絵かき（落書き）」「もぐらたたきなどのゲームコーナー」などになりました。そのうちいくつかが実現し、親子で楽しめるブースになることでしょう。

